

シマフクロウの生態

# シマフクロウの数と寿命

シマフクロウ保護・研究家 山本純郎

シマフクロウの生息数は、私が調査を始めた1973年頃は、断片的な調査しか行われていなかった。当時は北海道内で60羽から70羽とも言われていた。これは1960年代に故永田洋平さんの調査結果から推測した数字であった。しかしこの調査は道東を中心としたもので、この頃十勝、日高地方にも生息していたのは明らかである。

この3月環境省から推定165羽という数字が発表されたが、推定数は算出の方法によって数字は異なってくる。増殖事業の始まった1984年当初の数字から見ると2倍以上になっているが、当初の不確定な数字が一人歩きしていたことを考慮しても右肩上がりになっていることは確かである。

フクロウ類の寿命は比較的長く、小型種は20年前後、大型の種は50年くらい生きている。ただしこれは飼育下での記録である。野外では事故等のアクシデントがあり、不明な点が多い。野生の記録の最長はメンフクロウで29年が報告されている。

シマフクロウでは飼育下を除いても30年を超えている個体が私の知る限り3羽いて、繁殖もしている。20歳以上の個体となれば数多く確認されている。毎年20数羽の若鳥が生まれているので、もっと若返りがおきても良さそうだが、長く生きるといことはすべてに関して



5年目の成鳥



16年目の成鳥と幼鳥



21年目の成鳥と幼鳥



31年目の成鳥

優れているからこそできることで、そういった遺伝子をもつ個体を多く産出する方が、種の存続にはよいのかも知れない。これまで何百羽という雛に標識されているが、言い換えればその大半は死亡していることになる。改めて自然の厳しさを痛感する。



事務局便り

- 当会顧問の山本純郎さんが皆さんの質問にお答えします。普段気になっているシマフクロウのこと、何でも結構ですので事務局までお寄せください。お待ちしております。
- 入会を募集しています。引き続き当会の趣旨にご賛同いただける個人の皆様の入会を募集しております。ホームページからも入会の手続きが可能となっておりますのでご覧ください。

北海道シマフクロウの会 事務局 〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階 北海道二十一世紀総合研究所 内 (担当: 米谷・山内・北口) TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683 URL:hokkaido-shimafukurou.org

# 北海道シマフクロウ通信

北海道シマフクロウの会 会報



第19号

写真: 山本純郎

事務局より

## 平成30年度定時総会報告

### 平成30年度事業計画

**講演会の開催** 平成30年下半年にシマフクロウ等をテーマとした講演会開催を予定。

**会報発行** 年間4回を目処に会報「北海道シマフクロウ通信」を発行。

**関係機関連携** 引き続きシマフクロウ保護に係る関係機関との連携を促進。

**保護活動支援** 予算執行の状況を踏まえつつ実際の保護活動への支援を検討。

**北海道シマフクロウの会の法人化検討** NPO法人等の設立の検討

**パンフレット・グッズの作成を検討** 新パンフレット・シマフクロウのPR用グッズ作成の検討。

### 平成29年度決算 [期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日]

●収入の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
1. 年会費	1,200,000	1,056,000	△144,000	
2. 寄付	0	576,164	576,164	
3. 雑収入	0	126,021	126,021	懇親会費など
4. 前年度繰越金	1,487,445	1,487,445	0	
合計	2,687,445	3,245,630	558,185	

●支出の部

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
1. 総会・講演会	300,000	179,000	△121,000	懇親会費など含む
2. 会報発行	500,000	488,736	△11,264	
3. 通信費	250,000	137,560	△112,440	
4. 事務委託費	129,600	129,600	0	
5. 雑費	50,000	29,049	△20,951	
6. 予備費	1,457,845	100,000	△1,357,845	絵本発行監修代として
7. 次年度繰越金	0	2,181,685	2,181,685	
合計	2,687,445	3,245,630	558,185	

### 平成30年度予算 [期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日]

●収入の部 (単位：円)

項目	予算額	摘要	項目	予算額	摘要
1. 年会費	1,050,000	3,000円×350名	1. 総会・講演会	300,000	会場費等
2. 雑収入	0	預金利息等	2. 会報発行	500,000	年4回発行予定
3. 繰越金	2,181,685		3. 通信費	250,000	会報・総会案内送付等
			4. 事務委託費	129,600	事務局委託費
			5. 雑費	50,000	事務用品他
			6. 予備費	2,002,085	保護活動支援等に活用、パンフレット作製費用など
合計	3,231,685		合計	3,231,685	



平成30年度の定時総会が5月22日、北洋大通センター・セミナーホールで開催されました。総会では、前年度の決算や本年度の事業計画（講演会開催・会報発行および関係機関連携の継続、保護活動支援、当会の法人化やグッズ作成の検討）および予算案につき審議され、いずれも原案通り可決されました。また、併せて開催された講演会では、林野庁・北海道森林管理局計画保全部長 石橋 岳志様から「北海道の国有林とシマフクロウ生息環境整備の取組み」と題したご講演をいただきました（講演会の模様につきましては、次号の会報にてご紹介する予定です）。そして講演会終了後には、札幌すみれホテルにて懇親会が開催され、会報第18号に掲載された十勝ブランド「島泉」の試飲が行われるなど、会員の皆様の親睦が図られました。

当会はおかげさまで活動5年目を迎えましたので、今後は、シマフクロウ保護活動に対する広報情宣に加え、保護活動に取り組んでおられる皆様これまで以上のバックアップが行っていただけるよう、会員数の増強や事業の見直しも含め、様々な活動に取り組んで参りたいと思っております。



## 動物園とシマフクロウ

釧路市動物園 園長補佐

公益社団法人 日本動物園水族館協会 シマフクロウ計画管理者

藤本 智 (ふじもと さとし)



動物園でのシマフクロウの飼育記録は東京都恩賜上野動物園の記録が最も古く、1882(明治15)年の開園より前の1875(明治8)年に寄贈を受けた記録があり、1912(大正元)年までに9羽の飼育記録が残っています。その後、1954(昭和29)年から数園で飼育が再開されましたが、単羽飼育や性別不明のため繁殖には至りませんでした。

当 釧路市動物園では1975年の開園当初からシマフクロウの繁殖に取り組んでいます。鶴ヶ岱公園の一角にあった施設で保護収容されていたシマフクロウ5羽を動物園に移し飼育を始めたのですが、当初は雌雄の区別がつかず、エサを含む飼育方法も手探りからの開始でした。そのため世界野生生物基金(WWF:現世界自然保護基金) ジャパンの助成を受け性別判別方法や飼育方法、野外個体における死亡原因の究明などを行いました。その結果、性別判別に成功し、飼育方法の改善が図られたことでペア形成に成功しましたが、産卵には至りませんでした。

公益社団法人日本動物園水族館協会は1988年に第1回種保存委員会を開催し、飼育下個体群の維持のため、シマフクロウを含む希少種を中心に血統と繁殖を管理することにしました。シマフクロウについては繁殖計画を進めるために1993年に東京都恩賜上野動物園のメス1羽と鹿児島市平川動物公園のオス1羽を釧路市動物園へ移動させ、動物園で飼育されていたシマフクロウ(オス5羽・メス3羽)を全て集中させて積極的な飼育下繁殖を開始しました。翌1994年には初めて孵化に成功しましたが、残念ながら巣立ち前にヒナは死亡してしまい、1995年、同じペアから生まれた1羽が初めて巣立ちに成功しました。これが現在も生存しているメスのムムです。また1998年以降、環境省から主に放鳥できない個体を合計14羽譲り受け飼育下繁殖に供しています。2017年までに18回22卵が孵化しました。自然孵化が16回20卵(うち托卵5卵)、人工孵化育雛が2回2卵です。孵化したヒナのうち1年以上生存した個体は14羽です。そのうち1羽が環境省へ移管されて野生自活訓練を受け1999年に放鳥されました。飼育下繁殖個体が初めて野外に放たれたのです。

今年も昨年に引き続き1羽が巣立ち、釧路市動物園では16羽を飼育しています。しかし、一か所で飼育していると伝染病の発生や飼育に問題があった場合、全滅する恐れがあります。この危険を避けるために2012年から札幌市円山動物園と旭川市旭山動物園に個体を移動し飼育・繁殖に取り組んでもらっています。そして、今年旭山動物園で待望のヒナが2羽誕生しました。今後、動物園では数を増やし全国で飼育していきたいと考えています。



続けて開催

アークスグループでふくろうラベルの「ラ・キューベ・ミティーク」を買ってシマフクロウを守ろう！

現在は国の天然記念物、絶滅危惧種に指定されているシマフクロウを守るべく活動されている「北海道シマフクロウの会」へ、アークスグループ各店で販売された「ラ・キューベ・ミティーク」の売上金の一部を寄付させていただきます。

★「ラ・キューベ・ミティーク」ってどんなワイン？

ラ・キューベ・ミティークは『神秘のワイン』という意味で、ラベルのフクロウはローマ神話に登場する女神ミネルヴァの遺物として描かれ、智恵の象徴として知られています。また、ラングドック地方で初めてパーカーポイント90点を獲得し、一躍世界で注目されるワインとなりました。近年は数々のメダルを受賞しています。

結果

実施期間：2017年4月～2018年3月

実施企業様：ラルズ道央様、室蘭ラルズ様、道南ラルズ様、道東ラルズ様、道北アークス様、フクハラ様

販売数量(合計)：2,381本

寄付金額(合計)：47,620円 ※375mlは750mlに換算しております。

★今年も、2019年3月までキャンペーンを実施中です。

